

# 2014/15WINTER アクシデント・ニアミス（ヒヤリハット）レポート

このシートは、事故発生寸前で回避したか、より大きな事故につながる可能性があったが軽傷病ですんだ出来事（以下事故と呼ぶ）について、その事故を観察・関与した現場の指導者が記入し、コースディレクターに報告すると共に、事故防止のための対策を協議し、安全の向上に役立てるものです。

## 1. コース概要

団体名： \_\_\_\_\_ プログラム/コース名： \_\_\_\_\_  
記入者： \_\_\_\_\_ PD MD リーダー・カウンセラー インストラクター その他  
コースタイプ：デイキャンプ（2014年 月 日） 宿泊型（2014年 月 日～ 月 日）  
参加者人数： \_\_\_\_\_ 人 対象：未就学 学生（ \_\_\_\_\_ 年生～ \_\_\_\_\_ 年生） 社会人 全スタッフ人数： \_\_\_\_\_ 人

## 2. 事故概要

事故発生日時：2014年 月 日 午前 午後 時ごろ コース 日目/全 日中  
対象者氏名： \_\_\_\_\_ 年齢： \_\_\_\_\_ 才 性別：女 男 当該コース/団体事業参加回数：約 \_\_\_\_\_ 回  
事故発生時：プログラム中 プログラム外 交通機関による移動中 事故発生場所：屋内 屋外  
天候：晴 曇 雨 雪 地表：乾燥・平 濡・滑 雪 氷 岩 凸凹 ブッシュ 水上  
事故発生時活動内容：  
野外生活（テント生活） 環境学習（環境ゲーム） 野外炊事（調理・たき火） 創作活動（クラフト等）  
レクリエーション（キャンプファイヤー・野外ゲーム） 野外林・ツ（スキー・スノーボード以外の登山・サイクリング・カヌー等）  
コースコース 野外での自由活動・自由時間 宿舎生活（宿舎での食事・睡眠・自由活動） その他  
スキー・スノーボード→10に必ずご回答ください。

## 3. その事故から最も予想される、傷病の種類は何ですか。

【外傷】打撲など軽外傷 筋・靭帯損傷 凍傷 骨折 脱臼 脳損傷 おぼれ(窒息) 眼障害  
口内障害 水ぶくれ 火傷 裂傷 擦傷 日焼け  
【疾病】アレルギー反応 高度障害 低体温 熱障害 循環器障害 呼吸器障害  
消化器系障害 下痢 下肢障害 泌尿器系障害 皮膚感染 眼球感染

## 4. その事故から最も予想される、傷病の部位はどこですか。

頭 顔 眼 首 肩 上腕 肘 前腕 手首 手・指 胸 腹 背中 腰  
臀部 大腿 膝 下腿 足 爪先 踵 全身

## 5. その事故の最大の原因は何ですか。

【環境要因】高度 雪崩 低温 視界不良 脱水 滑落・転倒 落石・落木 水難  
雷 動物・害虫 植物毒 日焼け 天候  
【人的要因】服毒（薬・アルコール） 監視・監督不足 注意不足 能力不足 技術不足 判断ミス 疲労  
参加者把握不足 オーバーユース 指導不足 注意無視 既往症 不衛生 衝突  
不適切な行動 技術的システム 心理的 不健康 知識不足 道迷い 失敗  
【物的要因】装備不良 不適切な服装 施設の欠陥 装備の誤使用 装備不備

## 6. その事故が起こった場合の傷病の重大性はどの程度ですか。

軽傷/医療機関にいかない 医療機関に行く 全治3週間以上の重傷 死亡・後遺症

## 7. その事故はどの程度の頻度で遭遇しますか。

一年に数回 一年に一度 数年に一度 数十年に一度（初めて）

## 8. その事故の経緯を記述してください（いつ・どこで・だれが・どうして・どうなった）。

## 9. その事故の再発防止のための対策とし最も必要なものを選択し、具体的に対策を記述してください。

安全管理システムの改善 適切な装備・服装の改善 施設・環境の整備・管理 参加者情報収集の充実  
プログラムの見直し・改善 スタッフの安全管理スキルの向上 団体の組織・意識改革 その他

## 10. 事故発生時活動でスキー・スノーボードを選択した場合のみ回答してください。

10.1. 対象者スキー技術：初心者(プルカーレ以下) 初級者(プルカブ・ゲン) 中級者(システムターン) 上級者(パラレルターン以上)  
10.2. 事故発生時斜面斜度：緩斜面(10度以下/初級者コース) 中斜面(10～20度/中級者コース) 急斜面(20度以上/上級者コース)  
※斜度の選択は事故発生バーンのグレンデ情報に参考にしたか、現場指導者の感覚的な回答で構いません。  
10.3. 事故発生時斜面状況：整地 不整地 深雪 アイスバーン その他  
10.4. 事故発生時活動内容：1人ずつ滑走中 停止中 トーン中 フォーメーション中 検定中 フリ滑走 その他